

中央に6層の塔屋を設けた外壁はスクラッチタイル貼り

入口外部や玄関には花の彫刻がなされたテラコッタ装飾が映える



当時皇太子だった昭和天皇の成婚を祝い建築された。大正14年（1925）に着工し、昭和2年（1927）に竣工。設計は早稲田大学の佐藤功一博士。関東大震災で有効だった戦前期の壁付耐震構造で、県内でも最初期の鉄筋コンクリート造。外観に縦に釘で引掻いたような筋入りのスクラッチタイルを貼った。内部はオール・デコ様式の直線的デザインがされ、大柄な壁紙、カーテンがインテリアを飾る時代であったが、戦後の改装で新たな天井や壁が貼られ、当時の趣は失われた。天井内部と基本的壁下地部分が残っており、現在一部が創建当時の状態に修復された。創建時の県公会堂は、内丸通りから左側が県会議事堂、裏手が公会堂大ホール、右側が西洋料理店、正面はバルコニー付で事務管理室・皇族方等の宿泊所と、4つの用途を備えていた。同時代の同じ設計者の東京市政会館、日比谷公会堂はこの建物より2年遅れて昭和4年（1929）に完成している。平成18年（2006）に、国の有形文化財に登録された。

（もりけん本スーパerver.2より）

